

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民が里山の自然環境に親しむ機会を持つために必要である。なお、自然観察園の計画を進める上で、実績を積み重ねる必要がある。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	自然観察園の計画を進める上で、自然観察ウォーキングなどの開催を継続し、実績を積み重ねることにより有効性を高めるものである。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	生物担当学芸員のできる範囲で事業を進めている。	<input type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input checked="" type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	関連各課と協働で事業を展開する必要がある。自然観察園の計画を進めるため、多少非効率でも実施が必要である。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		自然観察園の計画を進めるため、継続的な実施が必要である。		

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				自然観察ウォーキング実施	自然観察ウォーキング、ガイドマップの作成	自然観察ウォーキング、自然観察案内板設置		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	342	1,500	0	0
事業費 (A)		0	0	0	342	1,500	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.20	0.20	0.20	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	1,679	1,679	1,679	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	1,679	2,021	3,179	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成21年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> ガイドマップを用いて、生物担当学芸員の受け持つ事業の範囲で実施していく。	
平成21年度 of 取組方針	
ガイドマップの活用を図り事業を展開していく。	
課長コメント	この事業を推進するためには、博物館独自の事業のほかに、関連した他課との協働事業を展開するのも、ひとつのあり方かと考える。